

現地レポート

山口県岩国市



サンアグロ
SUN AGRO CO., LTD

レンコン12町歩 楽しく施肥 だから4日間で追肥完了



米森チエ子さんは、レンコンを50年栽培されており、現在は㈱ヨネモリの社長をされています。追肥に千代田化成の流し込みをされている理由や、使い方についてお伺いしました。

『尾津ブランド』レンコン

山口県岩国市の尾津地区は、古くからレンコンの産地で、ブランドとして高い評価を受けています。その尾津地区の中でも、米森さんが50年間作り続けているレンコンは、「最も品質が優れている。」と高い評価を受け、お客様に喜ばれています。



千代田化成の“レンコン田んぼ”流し込み

流し込みで追肥を楽に、適期に実施

米森さんは約20年前から、山陽物産㈱さんの紹介で、追肥を流し込み施肥するようになりました。「以前、追肥を田んぼに入ってから施肥した頃は、反当30分以上かかっていました。それが流し込み施肥だと5〜10分で終わってしまうので、大変な労力の軽減と、時間短縮になりました。」
12町歩の追肥は非常に時間がかかり、手間も大変でした。「一枚5反歩の田んぼも均一に施肥できませんし、12町歩全ての田んぼの追肥も3〜4日で終わります。おかげで、適期を逃さずに追肥できるようになりました。」



尾津地区の“夏”風景

品質の高いレンコンを 作りたい

米森さんは、元肥に『日産ゼット（緩効性肥料：反当8袋）』と『セットアップ（苦土十石灰資材：反当4袋）』を使っています。「セットアップを入れると、レンコンが傷みにくくなります。また、シャキシャキ感が増して『とても美味しい！』と、お客さんから喜んでもらっています。」



1籠約67kg



ユンボで収穫のお手伝い

追肥は『千代田化成472（反当4袋）』と『スーパークリ（反当1袋）』を流し込み施肥しています。

「スーパークリを使うとレンコンが太って重くなりますし、粘りがでて美味しくなります。」
レンコンを太く・重くするには、収穫するまで肥料を切らさないことが重要です。

米森さんは、レンコン1籠67キロを60キロとして出荷していますが、追肥の流し込みをしないと1籠15キロも軽くなってしまおうそうです。明らかに流し込み施肥が、増収につながっています。

これからもずっと流し込み

レンコンの収穫は、7月中旬から翌年の4月まで、約10ヶ月間も続きます。収穫と追肥の時期が重なることもあるため、短時間に、しかも楽に施肥できる流し込みは、非常に効率的で有効な施肥方法です。「これからもずっと、流し込み施肥を続けて行きたいと思っています。」
丸々と太ったレンコンは、米森さんの優しい笑顔そのものです。米森さん、本当にご協力ありがとうございました。



■編集後記

米森さんの目標は、「子供たちにレンコン栽培を引き継いでもらうこと。」だそうです。受託栽培の面積も年々増えている米森さん。後継者が欲しいと思う生産者が増えれば、日本の農業も力強く羽ばたけるのにと感じた取材でした。